

交響曲第5番

《運命》

オーケストラ

とは？

①弦楽器



ヴァイオリン、ヴィオラ
チェロ、コントラバス

②木管楽器

フルート、オーボエ

クラリネット、

ファゴット



③金管楽器

トランペット、

トロンボーン

ホルン...



④打楽器

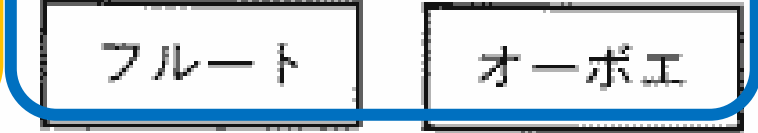
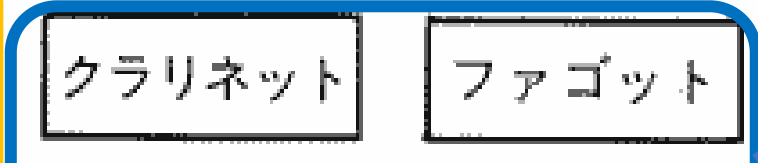
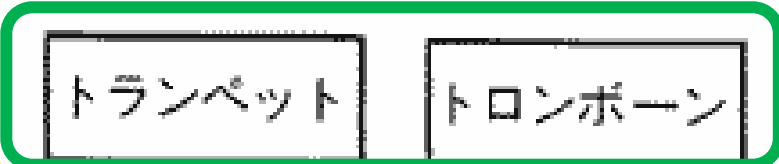
スネア、シンバル

ティンパニー

マリンバ・・・



打楽器

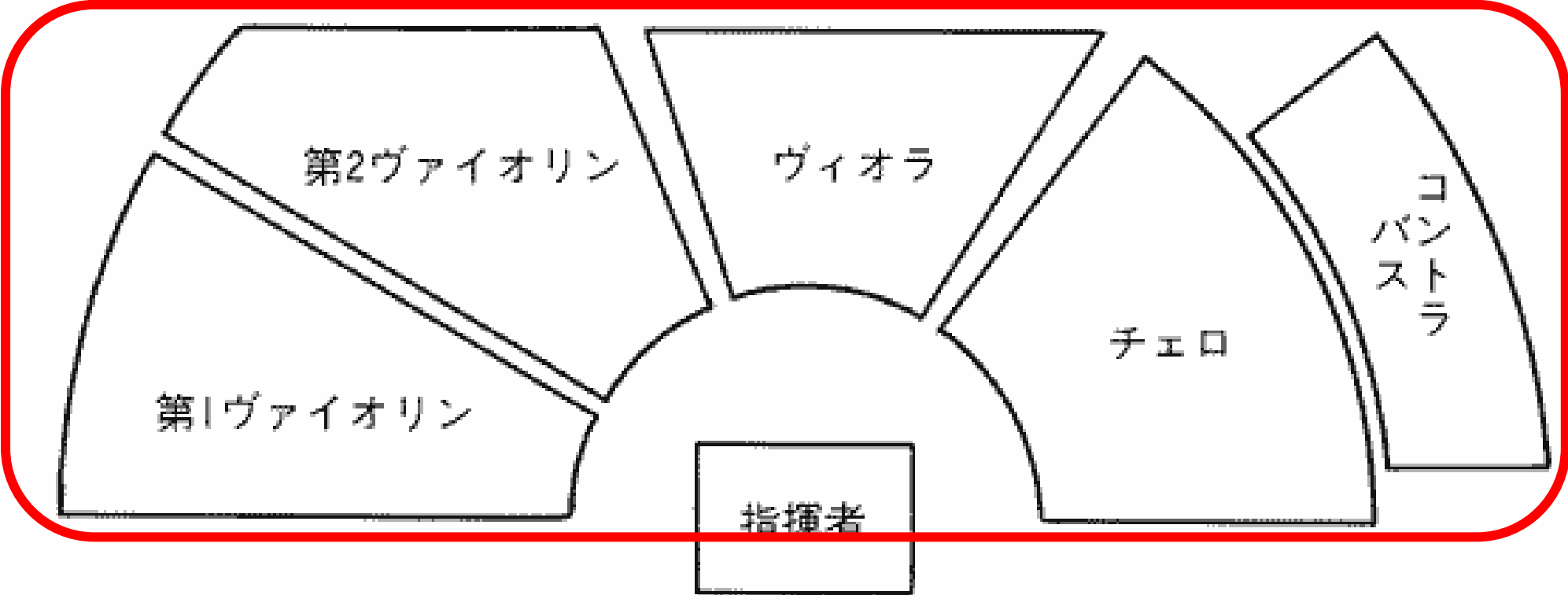


金管楽器



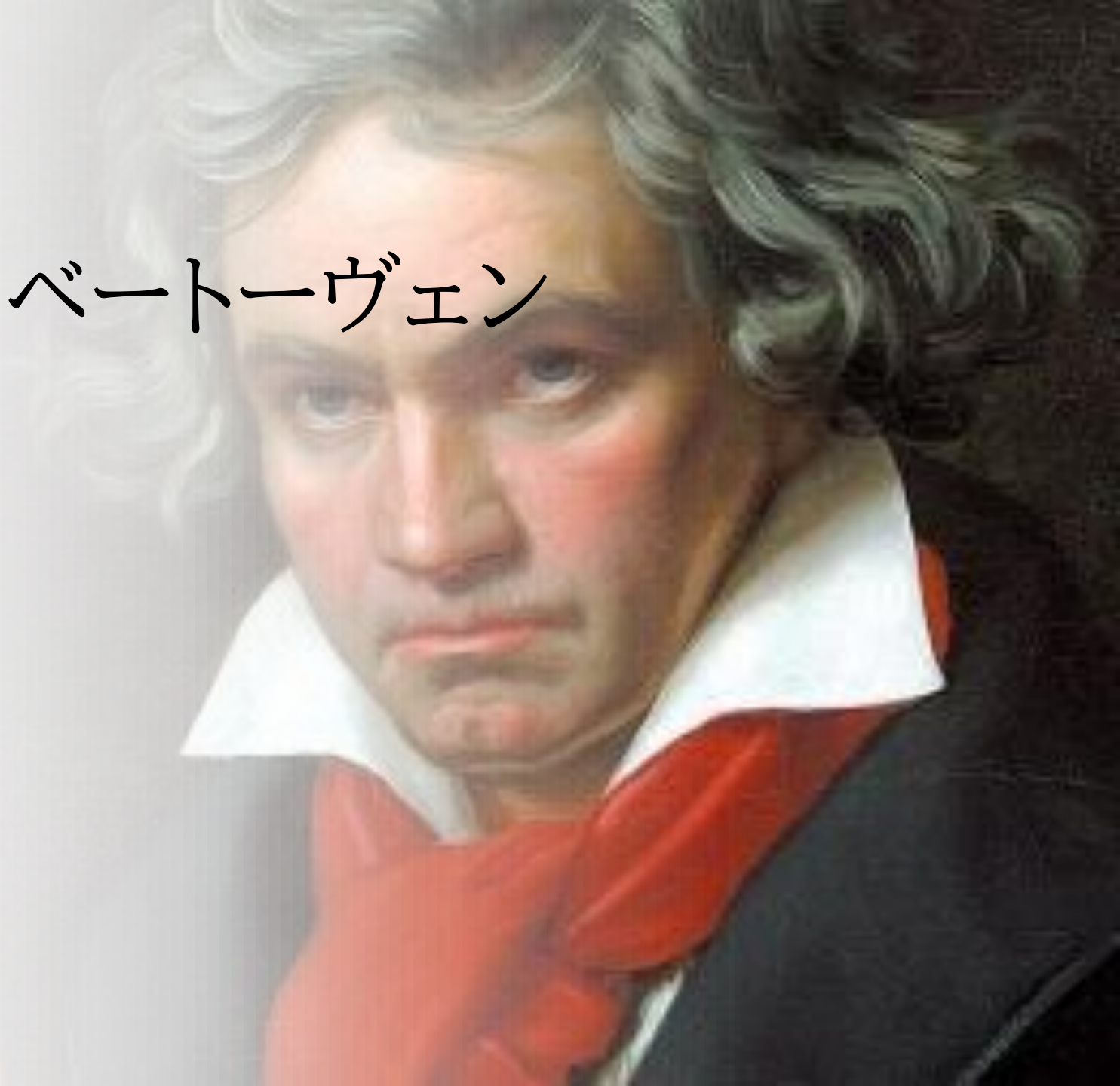
木管楽器

弦楽器



—
ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン

時代：古典派



交響曲

郷音

曲

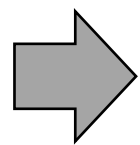
について

交響曲について

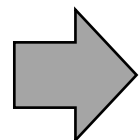
1楽章	2楽章	3楽章	4楽章
速い	ゆっくり	舞曲(3拍子)	速い

ソナタ形式

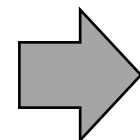
提示部



展開部



再現部



コーダ

提示部

ダダダ ダー



リズムの動機が**提示**される「このリズムでいくよ！」

展開部

ダダダ ダー



様々な形で動機が**展開**される

再現部

ダダダ ダー



冒頭のリズムの動機が**再現**される「このリズムだったよね」

コーダ

ダダダ

ダーン



リズムの動機が展開しながら楽章を閉じる。

リズムの動機＝

音楽を構成する単位
として、最も小さな
まとまり

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン

彼の悲惨な生涯とは……？



小～中学校

小～中学校 ・ ・ 父親の虐待ともとれるスパルタ指導を受ける。曲を弾き通せるまで、父親に食事も与えられずに部屋へ閉じ込められるなど。

(1 3) 歳で初めて曲を出版する。

高校生

17歳で母親が亡くなる。歌手であった父親はアルコール依存に陥って失職し、ベートーヴェンが仕事を掛け持ちして家計を支えるようになる。

20代

22歳の時父親が亡くなる。その後
（**ハイドン**）に音楽の才能を認められ
ウィーンに移住し、ピアニストとして
の頭角を表す。（**20**）代後半から耳
の不調に苦しめられる。何の病気かも
断定されず、様々な治療法を試すも大
きな効果は得られなかった。

30代～

耳の悪化が日常生活にも支障をきたす状況となり、1802年の秋、ウィーン北部の村、「ハイリゲンシュタット」で遺書を書いた。

30代～

その後の約10年間、溢れ出る創作意欲に裏打ちされた、多くの傑作を次々に生み出す。第6番「田園交響曲」の初演では、途中でやり直し。「第七交響曲」は、オーケストラよりも先に、自分の指揮が終了。それでも自分が作曲した音楽を壊されたくない、他人に任せられなかった。

40代～

40代半ばを迎えると、完全に聴力を失い、全く聴こえない状態で音楽活動
を続け、**(56)**歳で亡くなる。